

海津木苑運営委員会（令和2年度10月期）

会議録

1. 日時： 令和2年10月29日（木）15時00分 開会
2. 場所： 旧古賀市勤労者研修センター 2階研修室

3. 出席委員（12名）

委員長	結城 弘明	委員	智原 和子
委員	内場 恭子	委員	内平 晃二
委員	清原 秀則	委員	清原 透
委員	三好 収	委員	安武 正一
委員	森 里子	委員	横田 昌宏
委員	河北 吉昭	委員	星野 孝一

4. 欠席委員

箕原委員

5. 傍聴者数（1名）

6. 事務局出席職員職氏名

市民部長	清水 万里子	環境課長	智原 英樹
海津木苑長	吉田 義昭	海津木苑係長	国本 勝喜
海津木苑職員	三好 弘実		

概要

15:00 開会

1. 古賀市あいさつ
2. 委員長あいさつ
3. 協議事項及び報告

- 1) 会議録について（事務局より説明）

- (1) 8月期運営委員会会議録

資料.1

- (2) 10月期運営委員会会議録署名

【質疑・意見】 なし

- 2) 海津木苑運営に関する実施状況について

資料.2

（事務局より説明）

・令和2年8月及び9月の処理状況について

[質疑]

委員 : 清掃工場への8月分汚泥搬出量(26.98 t)と4月分汚泥搬出量(61.03 t)と比較すると8月分汚泥搬出量が大幅に低いですが、関係性をどのように見たいのか。

[答弁]

海津木苑長 : 冬場の11月から3月まで、処理槽内のSSを高めていたため、夏場に向けてSSを下げる必要があることから、4月からSSを下げるために汚泥処理を行った結果、汚泥搬出量に変動があった。

[質疑]

委員 : 放流水水質検査結果について6月から9月にかけて波があるが、6月から7月は梅雨の影響等があるのかと考えるが、8月、9月の変化の理由として季節的なものがあるのか。

[答弁]

海津木苑長 : 処理状況というところで放流水の水質が変動している。薬品が注入されるポイントを増減し、調整を行い数値を超えることがないようにしている。基本、季節的なものと処理が関係することはない。

[質疑]

委員 : 季節的なものが無いとしたら、なぜこれほど変わるのか。薬品を入れての調整と言うことだが、一番基本としての平均的なもので、浮遊物質(SS)の前年度平均が5.2 mg/lになっているのを考えると9月は倍の11.0 mg/lになっている。何か影響があったのか。入ってくるものによって違うと思うが、原因があるのか。

[答弁]

海津木苑長 : 浮遊物質というのは、放流水を汲み取っても目では見えない小さな浮遊する物質で薬品を使用して沈殿させているが、完全に沈みきれていなかったために浮遊物質(SS)が高くなることもある。

3) 令和2年度第2回臭気測定及び騒音・振動測定について
(事務局より説明)

- ・測定実施日(令和2年11月12日(木))
- ・予備日(令和2年11月25日(水))

[質疑・意見] なし

4) 海津木苑施設等啓発について 資料.3-1 ～ 資料.3-2

(事務局より説明)

[質疑]

委員 : 海津木苑の施設等の啓発については、職員の方たちはご苦労されており春頃から、新型コロナウイルスの関係で慎重になり、やりづらい部分もあると思うが、啓発について、どのような所が大変か、どのような対策を行っているか、分かる範囲で教えていただきたい。

[答弁]

環境課長 : 今年度の海津木苑の施設啓発については、これまでは実際に施設を見て頂き、食品加工団地に海津木苑がある意味も併せて子どもたちに感じてもらう施設啓発を行ってきたところだが、今年は、施設の見学を行うにあたり、子どもたちが密になったり、距離を取ることが難しいということでゲストティーチャーで学校に出向くようにしている。事前に各学校と協議を行い、体育館や多目的ホールなどの広いところで十分な換気をしながら研修をおこなっている。職員としては、海津木苑を見てもらいたいという思いがあるので、研修内容については、工夫を凝らして発信をしている。また、施設が新しく建設された後には、現在の小学4年生が6年生になっているところだと思うが新施設見学ができるよう、教育委員会との協議も行う。

[意見]

委員 : 毎年、小学4年生の見学を行っているが、今年はコロナ禍で難しいところがある。今の4年生が肩身の狭い思いをしていると思うのでゲストティーチャーで行っているのでは何とかそういう形ででもしてもらえればと考えていたので、今後も取り組んでいただきたい。次期し尿処理施設についても、今回の新型コロナウイルスの教訓を生かし、職員たちの安全も考慮した見学方法を検討してほしい。

[質疑]

委員 : し尿処理教育部会学習会について尋ねる。この団体名は古賀市学校人権教育研究協議会となっている。64名ということは、古賀市にあるそれぞれの学校から何名かずつ参加したと想像している。先生方は、人権に対しての研究を重ねてきている部会の方々が集まり、施設を見学したいという思いで参加していると思うが、まず、学校の課題、人権に関する課題がどこなのかというのがそれぞれの学校であると思うので、64名の方が部会なので、海津木苑に行き、自分たちの学校の課題のこのようなところを子どもたちが啓発できるように教育していきたいので、海津木苑見学を通して、ここに来る意味を学校の先生たちで出し合って、どのように取組を実践して行こうというところまで無いと、意味がないのかなと思った。ただ、形式的にきて、感想を書いて終わりみたいに読んで感じた。ここに来る意味、部会の意味も含めて真剣に取り組んでいる中身が見えないと感じた。どのような感じだったのか尋ねる。

[答弁]

海津木苑長 : この研修を 8 月の夏休み期間中に行ったが、委員が言われる各小中学校の方から部会に入っている 64 名の先生方が参加した。この研修については随分前から毎年開催している。研修を受けて、各学校にそれぞれ持ち帰り、その後どのように生かされているのかというのが大事な所だと思う。委員の貴重な意見として、事務局とも話をし、こんな効果が出たというところを伺っていく。

4. 報告事項

次期し尿処理施設建設について

・古賀市次期し尿処理施設に関する事前打ち合わせ（第 24 回）8 月 26 日（水）

[意見]

委員 : 今、事務局より報告があった 8 月 26 日に事前打ち合わせを行った。10 月のこの時期になっており、すでに 2 ヶ月が経過している。早く内容を詰めて、協定書・覚書をお互いに合意し、調印まで行う大きな作業が残っている。事務局には申し訳ないが、急いで行いましょうとお願いしてたが、市の方も事情があったかもしれない。この時期になり、11 月 4 日に決まった。進め方について地元としては不満がある。スピード感を持って進めて行かなければと思う。

5. その他

[質疑]

委員 : 運営委員の問題になるが、副委員長が亡くなられた。支部から 2 名ということで 1 名欠員になるが、事務局はどう考えているのか。

[答弁]

環境課長 : その他で事務局から提案させていただこうと思っていた内容だが、本日の運営委員会については、副委員長の訃報が届いて間もないことであり、委員長に相談し、副委員長不在のまま審議をして頂いている。古賀市海津木苑運営委員会設置規程では第 5 条に委員会には委員長及び副委員長を置くとなっている。副委員長はこれまで地元代表の皆さんから推薦いただき、委員の皆さんの互選により決めてきた経緯があり、事務局から地元代表の皆さんに相談させていただく。委員長には適宜、報告・連絡・相談させていただきながら進めて行く。

[質疑]

委員 : 新し尿処理施設が建設されるという方向で進んでいるが、一番心配するのが施設が出来た時に、民間委託のことを考えていないか怖さがある。清掃工場に勤務していたが、59 歳の時に清掃工場が閉鎖になり、事務の経験もない

が事務局にあげられた。現在施設の職員も 50 歳過ぎが多いが、民間委託になった時に本庁に行くことになれば、その辺は十分に職員のことを考えて頂き、現状のままで進めて行くことをお願いする。

16 時 00 分 閉会

以上

この会議録が正確であることを証明するため、会議録署名人として次に署名捺印する。

令和 2 年 月 日

委員長 印

委員長の指名する
出席委員 印